

2020年度 教育実践総合センター活動概要

1. 構成員

センター長（併任）

教授 栗原 慎二

センター担当教員

《学校教育相談実践部門》

教授 栗原 慎二（併任）

准教授 深谷 達史（併任）

《教育実践研究開発部門》

准教授（実務家教員） 大久保幸則（併任）

准教授（実務家教員） 木佐木太郎（併任）

事務補佐員

竹ノ中亜由美

非常勤相談員

教育臨床相談 エリクソン ユキコ

非常勤研究員

小澤郁美

センターの概要

二つの部門を設置し、学校や教育委員会等の教育・行政機関や地域と連携を図りながら次のような活動を行っている。

教育実践研究開発部門では、高い専門性と優れた指導力を持つ教員を養成するための教育事業や研究・カリキュラム開発を行うとともに、学校の実践研究に対するコンサルテーションも行っている。学校教育相談実践部門では、現在の学校教育が抱える問題を解決・予防するための研究や、相談・支援活動を行っている。平成18年度から学校心理教育相談室（にこにこルーム）を設置し、学習や生徒指導・研究相談にかかわる心理教育的支援、学校心理学に関する教育・研究を行うとともに、学校心理学に関する研修の機会を提供している。

2. 主催・共催による公開講演会・シンポジウム・研究会等の活動

子どもの心と学び支援セミナー

①「私たちは教育を通じて何ができるか？」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2020年5月23日（土）

形態：オンライン

講師：中井俊之（広島市立小学校）

米田成（大阪市立中学校）

津山裕美（広島市立小学校）

参加者数：32名

②「ポストコロナ時代に学びをアップデートする」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2020年6月27日（土）

形態：オンライン

講師：バーンズ 亀山 静子（NY州公認スクール
サイコロジスト）

川俣智路（北海道教育大学教職大学院）

参加人数：35名

③「コロナ禍だからこそ・・・協同学習を仕掛けよう！」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2020年9月27日（日）

場所：広島市社会福祉センター（ビッグフロント
広島）

形態：対面・オンライン

講師：栗原慎二（広島大学）

参加人数：31人

④「子どもの反社会的問題行動（非行）について考える」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生他

期日：2020年11月21日（日）

場所：広島グリーンアリーナ（中会議室）

形態：対面・オンライン

講師：土井知子（広島県広島南警察署生活安全課
課長補佐・公認心理師）

坂谷佳祐（広島県東部こども課程センター
相談援助第二課初期対応係）

大國綾子（松江市公立小学校教諭）

参加人数：25人

⑤「チーム学校における保護者連携・支援とは？」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生他

期日：2021年1月23日（土）

形態：オンライン

講師：中司博之先生（学校心理士スーパーバイザー・公立学校SC・私立高等学校SSW・元広島市立中学校教頭）

栗原慎二（広島大学）

参加人数：40人

⑥「新年度に向けて教育相談力を高めよう！（ワークショップ）」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生他

期日：2021年3月20日（土）

場所：広島グリーンアリーナ（広島県立総合体育館）またはオンライン

形態：対面・オンライン

講師：大國綾子（島根県公立小学校教諭）

谷田寿幸（広島市公立学校教頭）

坂谷佳祐（広島県東部こども家庭相談援助第二課初期対応係）

斉藤弘樹（熊野町教育委員会教育指導監）

米田成（大阪市公立中学校教諭）

中井俊之（広島市公立小学校教諭）

藤村友大（広島市公立小学校教諭）

栗原慎二（広島大学）

山崎茜（広島大学）

エリクソンユキコ（広島大学）

参加人数：18人

3. 研究活動状況

センタープロジェクト研究

①岡山県総社市との協力に基づく共同研究

「マルチレベルアプローチによる生徒指導改革の研究」

②宮城県石巻市との協力に基づく共同研究

「学習指導の改善のための実践研究」

③科学研究費助成事業基盤研究（B）

「認知的スキルと社会情動的スキルの統合的介入方策の開発と評価」

④科学研究費助成事業挑戦的研究（萌芽）

「コンピテンシーを育てる教師の力量を測定・育成する方法の開発と評価」

⑤虐待防止の為の保護者教育プログラムの開発

4. 教育・社会貢献事業

(1) にこにこルーム（学校心理教育支援室）

《学習相談》

にこにこルームの学習相談に参加した学生は前期49名，後期50名。

①前期（2020年5月20日から2020年7月29日）

東広島市内の小中学校8校，茨城県内の中学校1校，栃木県内の小学校1校から4年生以上の児童生徒22名を対象に，5月20日から7月29日までの計10回，毎週水曜日17時から18時，または18時15分から19時15分までの

60分，オンライン（zoom）で認知カウンセリングを行った。終了後，オンライン（zoom）で毎回ケース検討会を行った。

②後期（2020年11月4日から2021年1月27日）

東広島市内の小中学校10校，呉市内の中学校1校，東京都内の小学校3校，徳島県内の小学校1校から4年生以上の児童生徒23名（前期からの継続を含む）を対象に，11月4日から1月27日までの計10回，毎週水曜日17時から18時，または18時15分から19時15分までの60分，オンライン（zoom）で認知カウンセリングを行った。終了後，オンライン（zoom）で毎回ケース検討会を行った。

③その他の活動

地域の小学6年生5名を対象に，9月19日から4日の間，算数や国語の学習法を学ぶ秋季学習講座を実施した。

《学校臨床相談》

一年間を通じて臨床心理士と大学院生の学生支援員による学校臨床相談活動を実施した。1回の面接は50分で，原則10回～15回を上限とした回数限定でカウンセリングやソーシャル・スキル・トレーニング（以下SST）等を対面およびオンラインにて行った。学生支援員が担当するケースの判別は臨床心理士が行い，インテーク面接の実施後，学生が児童生徒の面接を担当した。

今年度は，コロナウィルス感染拡大防止のため，にこにこルーム（広島・東広島）を一時閉室。感染が落ち着いた頃に感染防止対策を整え，カウンセリングを再開した。

① にこにこ広島ルーム（毎週土曜日）

広島大学東千田キャンパス内の相談室およびオンラインにて，毎週土曜日（10時～17時30分）に完全予約制で相談活動を行った。来談件数は5件で，延べ相談件数は32回（対面6回，オンライン26回）。来談のケースは中学1年生～高校1年生。不登校及び不登校傾向や対人不安に関する相談が中心であった。

② にこにこ東広島ルーム（毎週日曜日）

広島大学キャンパス内の相談室およびオンラインにて，毎週日曜日（10時～17時30分）に完全予約制で相談活動を行った。来談件数は12件で，延べ相談件数は41回（対面31回，オンライン10回）。来談のケースは小学校3年生～

大学生で不登校及び不登校傾向、引きこもり、発達障害、対人不信、不安障害などに関する相談が中心であった。

③定期ケース検討会（木曜日 18 時～20 時 30 分）

前期・後期共に定期ケース検討会を対面・オンラインで実施した。参加学生は事前登録した 27 名で、臨床心理士及び学生支援員の担当するケースの事例検討会を行った。また、学級経営、児童・生徒のアセスメント、カウンセリング基本技法、SST 技法等の勉強会を実施した。（延べ 23 回）

④ボランティア実習

広島市内の母子自立支援施設、広島市生活困窮世帯学習支援事業等において学習支援ボランティア実習（最低 5 回以上）をオンラインを中心に実施。学生は実習後に毎回レポートを提出し、教員によるフィードバックを行った。派遣した学生は延べ 162 名。

⑤集団ソーシャル・スキル・トレーニング&学習カウンセリング実習

地域の児童・生徒を対象に 2020 年 11 月 19 日から 2021 年 1 月 28 日まで計 5 回、オンライン集団 SST を行った。参加者は対人関係の苦手な子どもや発達障害の傾向のある児童・生徒で、発達の課題が顕著にみられるグループ（小学 3 年生～5 年生 4 名）と対人スキル向上に焦点にあてたグループ（小学 4～6 年生 6 名）に分かれ、集団でのオンライン SST を学生支援員が担当し教員の指導のもと実施した。

(2) 学校コンサルテーション活動

概要：学校での生徒指導・教育相談に関するコンサルテーション

時期：通年（約 20 回）

対象：教員および保護者等

人数：延べ約 150 名

(3) 研修会及びワークショップ

概要：学校での生徒指導・教育相談に関する研修会及びワークショップ

時期：通年（約 40 回）

対象：教員等

人数：約 1000 人

(4) フレンドシップ事業「ゆかいな土曜日」

教育実践総合センターの教員をはじめ学内委員 13 名（例年は下見地区の地域の方等も学外委員として参加）から成るフレンドシップ事業運営委員会を組織している。「地域教育実践 I・II」「地域教育支援実習 I」の授業として通年で開講した。2020 年 10 月から 12 月の間、3 回の活動を 13 時から 17 時（例年は 6 月～12 月の間、6 回の活動を実施）の時間帯で行った。計 70 名の学生が参加し、活動した。また、東広島市立小学校から募集した 43 名の児童が参加した。「あそびバ!」、 「手作り遊び」の 2 グループに分かれ、それぞれ児童 5～6 名と学生 6 名で 1 班とし、8 班を編成で、グループ活動（例年は畑での栽培活動も実施）を行った。

5. 研究紀要の刊行

・学校教育実践学研究（第 27 巻）の刊行

